

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報

第二千七百七十九號
明治三十三年九月十六日 火曜日
舊曆庚辰八月廿六日（庚子）
出刊時間 午前六時五十分
印刷部 午後六時三十分
（西曆一千八百九十九年）

大蔵省訓令第百二十九號

佛領東京石炭事情（前號の續き）

第三東京石炭中野區の調査

東京石炭各脈の廣及ぶ其炭量の廣大なる模様が前節記載の如くなるが此廣大なる炭層中殊に多量ありと稱するものは東南一帶の地方なりとす即ち其多量の事情は第一此地方の炭質は西北地方に比して品位佳良なる事、第二其炭層の形、傾斜の度合等採掘に都合宜しき事、第三前節の略圖に示したる如く此地方は東京の中央市場とも云ふ可き海防を距るも甚だ遠からずして販賣上今日に容易ならざる便利ある上に略圖に示したる東京灣中陸地と半島并に嶺の間に出入して天然の港灣を爲せる白蛇港は灣内海水至て深く數千噸の汽船を自由に入出ししむるを得て佛國政府は東京地方殖民地を警備すべき一大軍港を此地に設置せんとするの企てある程のものなるに比地方の炭脈地を詳述經過して此港に注ぐ河流も乏しからず其距離も十英里内外に出でざる次第れば將來に運輸の便を得るゝも少からざる事等なりとす而して此多量なる炭脈中重要なるものは蓋藤錦、豆河越、龍煙等にして之に次ぐは待旦安居、安立寺朝等なりと云ふ

第四東京石炭探掘の企業者
東京地方に石炭の要となるべく前記の如くにして其石炭の積層厚く如く大なり便利に機械なる歐洲人輩に争ふて探掘を企畫せざらんや同志を語らひ實を策謀を博せんと欲する者陸續を接する中其重要なるものを擧ぐれば第一蓋藤錦の所有主と爲りし佛人ジョーエ氏にして資本十萬圓を以て蓋藤錦區に事業を始め此程の本紙に記載したる如く其探掘を海防に輸出し佛國郵船社には一噸六弗（是迄同地の石炭は日本の粗品にして通例一噸十二弗位ありしに）にて毎月六百噸づゝ、同川汽船會社には同價格にて一箇年に一萬二千噸づゝ賣込むことを約定して内外の炭業者を驚かしたるものなり、其第二は其株券發賣して七倍の高に達し一時商業社會に喧傳したる有名東京佛國石炭會社にして龍煙、河越、錦、豆等多量なる炭脈を借區とし百萬弗の資本を以て鐵道、橋梁、水路等石炭輸出の事に關してす、蓋藤錦區の計畫を立て去る十三日の旨報にも見えし如く今度事業計畫費として更に六十萬弗の債券發行を可決したるものなり其第三は未だ探掘に着手せずと雖も待旦安居との二炭脈を有し將に大に爲す所あらんとして資金の募集なる佛人加勒イ氏なり第四も同斷實本金の才量中あれども寺、朝の炭脈を借區として事業着手の計畫に急ぎ佛人ジョーエ氏等ありとす、此等の企業者何れも大に未來に期する所あるものなるが同業互に競争を競はんと欲するの餘り事業未だ開始に至らざる頃より已に競争の氣味ありて互に其運計を秘密に現に我が外務省より派遺したる岩淵氏の如きも一通りにて各所の巡視を遂ぐるも能はず種々苦心の末廻り違き手順を経て始めて事情の大略を取らるべく次第に東京石炭の將來に注意するものは今後各自の受くべき利害を痛切して以上四箇所のシンワケートを企つるも必要なりと云ふものもある次第なりと云ふ復以て企業者の意氣は一塵を知らざるべし（未完）

時事新報定價
本埠外埠
本埠外埠
本埠外埠

時事新報定價
本埠外埠
本埠外埠

時事新報定價
本埠外埠
本埠外埠

見込なしと云ふ私立營業會社の事あれば其創立の時
に當り工事落成の期限に付き例令へ政府と約束したる
事とあるも實際協定の許さざる所は之を如何とす可
らず鐵道會社は政府に對して向う何年間に何處までの
工事を終る可しと約したるには相違なきも其鐵道たる
政府の注文品には非ずして會社自身の所有物なりとす
れば官舎の普通受賃人などが何年月まで其普通請を
終る可しと約したるものとは事情固より同じからず工
事の延滞を免はざるに出で實地如何ともする能はざ
るの場合もあれば政府も鐵道會社に對して亦之を如何
ともする能はざる可し斯て山陽鐵道の工事が西、尾ノ
道迄に止まりて是れより以西に進歩するの困難を感じ
鐵道政治上に於て暫時も猶豫す可らざる幹線の敷設を
年一年と延滞せば一朝邊海峽あるに當り何を以て軍國
交通の策を施す可きや誠不安心の至りと云ふ可し試
に今日の形勢を看し彼の清佛戰爭以來の外面上に於
ては東洋風波なきが如くならず露國が朝鮮邊に真軍
港を得て行く、其間南の翼を張らんとするの志ある
は蓋し一朝夕の故に非ず彼の西北比利亞鐵道の成功の如
き或は此志を成するの機会たるやも測り知る可らず支那
は我國を敵とするや或は之を友とするや球事情は既
に之を忘れたるや或は今尚記懸するや我輩の知らざる
所なれども兎に角に我々の眼を以て我國の動靜を注視
するは疑ふ可らざるの事實ならん西諸國は近年來所
謂聯合の姿にして其鋒銳を露はさしれども歐土の妖雲
漸く東せんと欲するは亦是れ自然の勢にして露、英、
佛、獨、何れにも先づ手を東洋に伸ばすものあれば幾
多の狼狽之れに繼ぎて紛々擾擾を恐にす可きは歐洲
國際の情に於て亮る可らざるものならん特に彼の朝鮮
の如き地理より云ふも國情より云ふも東洋諸國の盤屈
する處にして東西の強國先づ事端を開くものは多分
の國に於てす可く而して其國境たる近く我九州に接近
し一旦緩急、我國防上の警戒は最も西陸に密ならざる
を得ず然るに古今禍患の萌すは人智の究む可らざる所
にして假令今目前の小康を得るも急變萬一の場合を思
ふて夫れ、其準備を爲さざる可らざるが故に神戸以
西馬關に至る山陽道一帶を買きて鐵道の幹線を敷設す
るは獨り商業的運輸の爲めのみならず軍國交通の爲め
に謀りて一日片時も猶豫す可らざるものならん左れば
我政府に於ては假令何様の事情あるも力のあらん限
りを盡くして其速成を期す可き筈にして今日の實際
彼山陽鐵道會社が政府に豫示したる期限内に工事を
終るも能はざるの事情もあれば政府は相當の手段を
以て充分その成功を助けざる可らず抑て之を助げん
して其方法は如何す可きや我輩請ふ之を大いに陳せん
（未完）

時事新報定價
本埠外埠
本埠外埠

時事新報定價
本埠外埠
本埠外埠



古代の風俗を思ひ出し

大坂市水運建設設計の
今コレラの流行益々
三日午前迄新患者
其發病の原因は支流の
に居る爲めなるべし左
宮内省より下賜の三
民にして一定の飲料水
を三千荷宛を施與し居
生上水道布設の必要な
渡りたるより此程の本
急々再燃し大坂私立衛
藤昌直等の諸氏が主唱
事とあし去十二月午後
務所に於て會頭西村拾
二郡長市會議員銀行者
家等數百名に會頭西村
問ひ若し發成を得ば直
に一切の事務を擔任せ
の議決を得て實行する
しは前記の如くコレラ
相違なきも急々實行す
を要すれば東京の例に
を仰ぐ目的はなれど國
進行はれ難からんとて
よし又水道は上水下水
設計は去る二十年大坂